

## 出演者プロフィール



### 瀬尾 文子（司会）

東京大学大学院にて美学芸術学を学ぶ。博士（文学）。世俗化時代のキリスト教音楽に関心を持ち、とりわけドイツ語圏市民オラトリオの研究に従事。現在は能との比較研究やジェンダー的視点を採り入れた研究も行う。著書『近代市民社会の信仰と音楽：オラトリオは聖か俗か』（春風社、2023年）。キリスト教音楽学校（現：キリスト教音楽院）オルガン本科・研究科卒。ハインリヒ・シュッツ合唱団（淡野弓子指揮）元ソプラノ。



### 青木 高志（第一ヴァイオリン）

桐朋学園大学卒業。ヴァイオリンを江藤俊哉氏、ウィーンにてウィーン・フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター R. ホーネック氏に師事。第57回日本音楽コンクール入選。1990年より東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスターとして、1992年から2001年まで「モルゴーア・クアルテット」のメンバーとしても活躍した。2015年、25年間在籍した東京フィルを退団し、国立音楽大学教授として後進の指導に力を注ぐと共に、The Orchestra Japan コン서트マスターとしても活動を行っている。



### 谷川 絢音（第二ヴァイオリン）

滋賀県出身。第32回京都フランス音楽アカデミーや調布国際音楽祭、La Loingtaine 等国内外の講習会に参加。長岡京室内アンサンブルに出演。国立音楽大学芸術祭にてソリストとしてSオーケストラと共演。これまでにヴァイオリンを青木高志、永峰高志、森悠子、A. ソリエールの各氏に師事。室内楽を青木高志、漆原啓子、松井直之の各氏に師事。現在、国立音楽大学演奏・創作学科弦管打楽器専修4年弦管打楽器ソリストコースに特別給費奨学生として在学中。



### 内藤 賢吾（ヴィオラ）

国立音楽大学附属小・中・高等学校を経て、国立音楽大学卒業。同大学アドヴァンストコース修了。ヴァイオリンを奥田雅代、徳永二男の各氏に、ヴィオラを川崎和憲、松井直之の各氏に、室内楽を漆原啓子、風岡優の各氏に師事。現在はオーケストラへの賛助出演や室内楽で全国各地で演奏するとともに、ヴィオラ講師や合奏指導に携わるなど活動の幅を広げている。足利カンマーオーケスターヴィオラ奏者。国立音楽大学附属高等学校非常勤講師。



### 三戸 正秀（チェロ）

1958年青森県弘前市出身。国立音楽大学附属音楽高等学校を経て、1981年国立音楽大学卒業。1984年NHK交響楽団入団。2023年5月NHK交響楽団団友となる。チェロを故阿保健、故大村卯七、故小野崎純の各氏に師事。国立音楽大学特任講師を務める。



### 山田 剛史（ピアノ）

東京藝術大学大学院修士課程を首席で修了、クロイツァー賞受賞。ロームミュージックファンデーションの奨学生としてケルン音楽大学に留学、国家演奏家試験に合格。2007年第5回東京音楽コンクールピアノ部門第1位および聴衆賞受賞。ソリストとして秋山和慶氏指揮東京交響楽団はじめ共演多数。室内楽・歌曲伴奏にも定評があり、東京オペラシティ「B→C」、東京・春・音楽祭等出演。CD「モダン・エチュード」（レコード芸術誌特選盤）。国立音楽大学および東京学芸大学非常勤講師。

## 「羽村市と国立音楽大学との連携に関する協定」

令和3年9月10日、羽村市と国立音楽大学は活力のある地域社会の創造、人材の育成などを目的に連携協定を締結しました。羽村市と国立音楽大学は協定締結を機に、音楽による連携・協力を深め文化芸術の一層の充実に努めています。本公演はこの協定に基づき開催するものです。